

# 疫学調査 クラスター対策

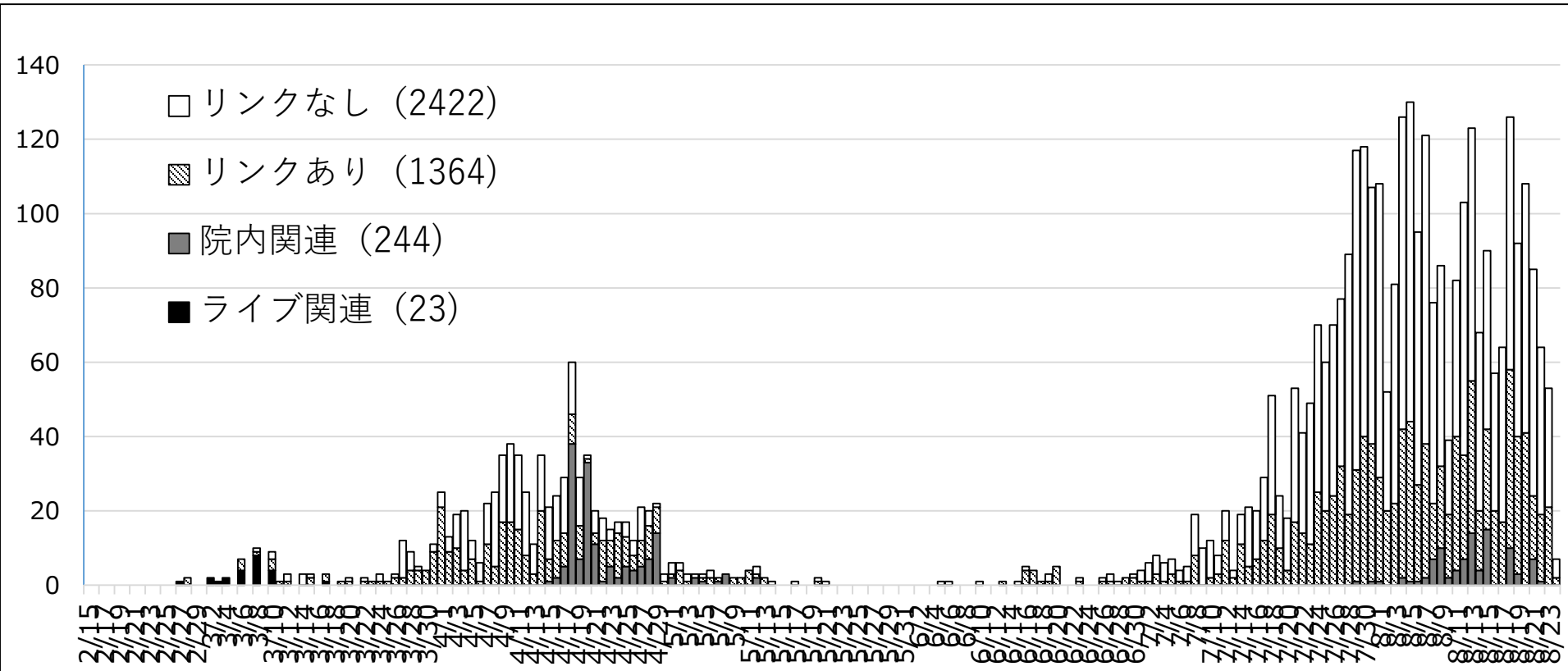
# 大阪市内で発生したクラスター 報道発表分（n=16, 2020年8月24日現在）

- 2月1日～5月31日
  - ライブハウス 4件 2月
  - 医療機関 2件 4月
  - 医療機関 1件 5月
- 6月1日～8月20日現在
  - 介護福祉施設 6件 8月
  - 医療機関 3件 8月

リンク不明例の増加ピーク後に医療機関・福祉施設  
クラスターが増加

# 大阪市内症例の判明日別流行曲線 (n=4,148) (2月15日-8月24日時点)

報告数  
(人)

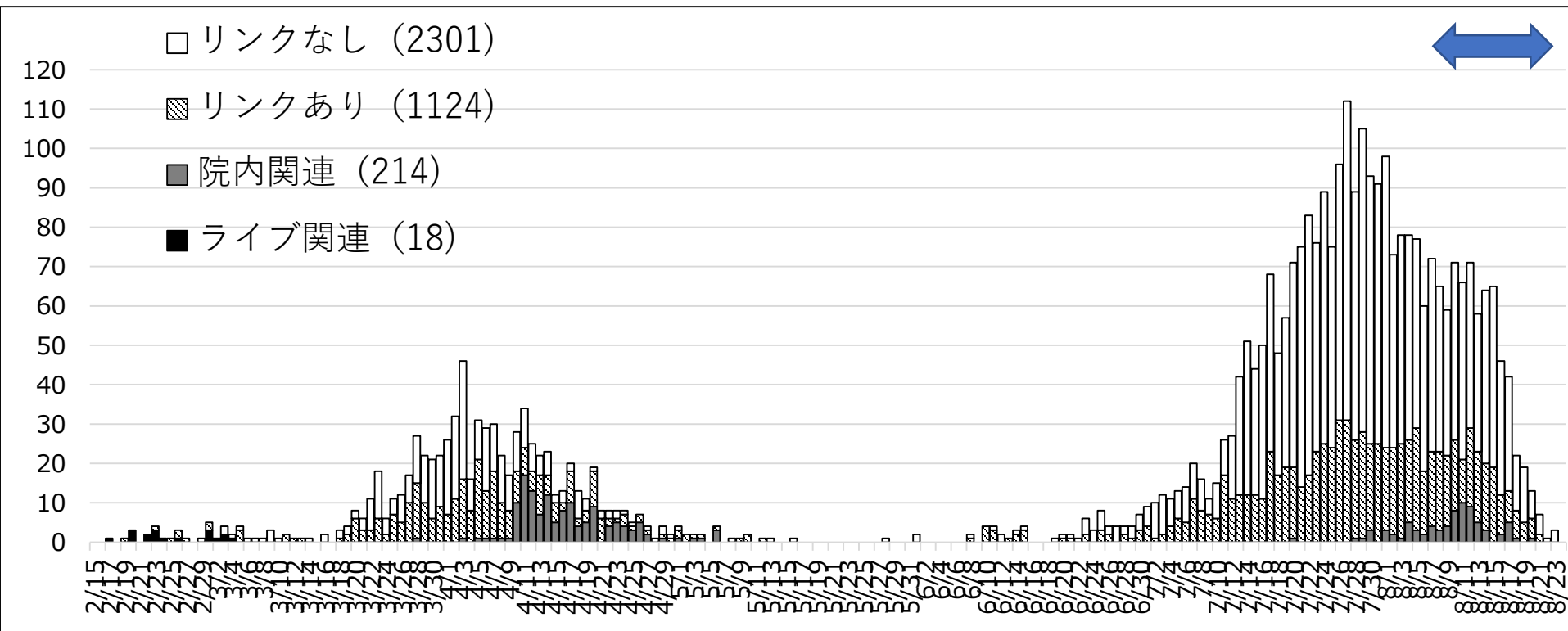


- 8月17日～23日 新規患者数 573例 (前週比 - 27例)
- うちリンク不明例 321例 (56%)、7/20-7/26週に比して減少  
(63%→56%)

# 大阪市内症例の発症日別流行曲線（n=3,724, 無症状263例、発症日不明を除く） （2月15日-8月24日時点）

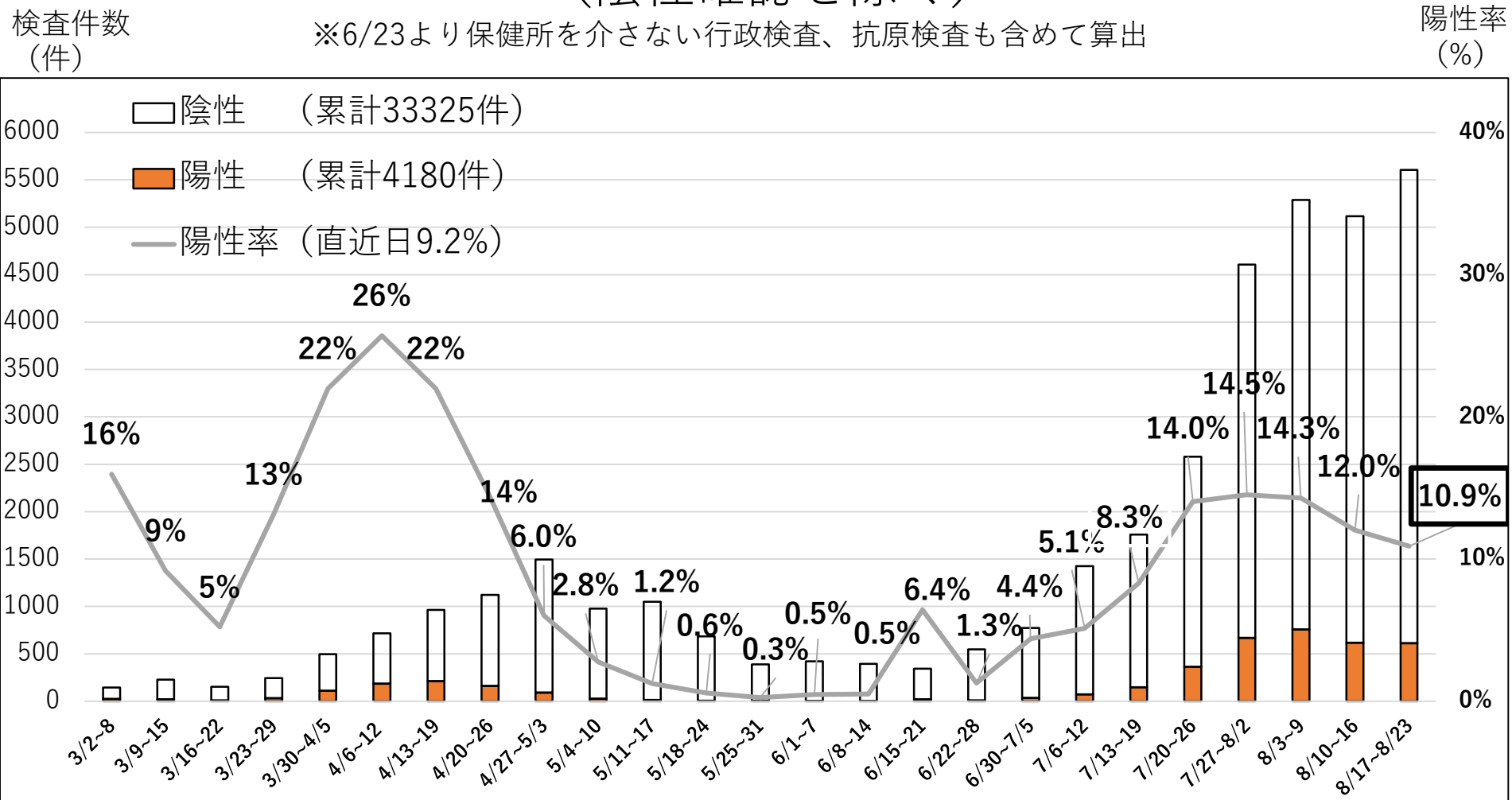
報告数  
（人）

追加報告の  
可能性あり



- 発症日別で見ると7月下旬にピークを認め減少傾向（全国と同様）
- ただし8月以降の報告数は、報告までのタイムラグのため追加される可能性があり解釈に注意必要

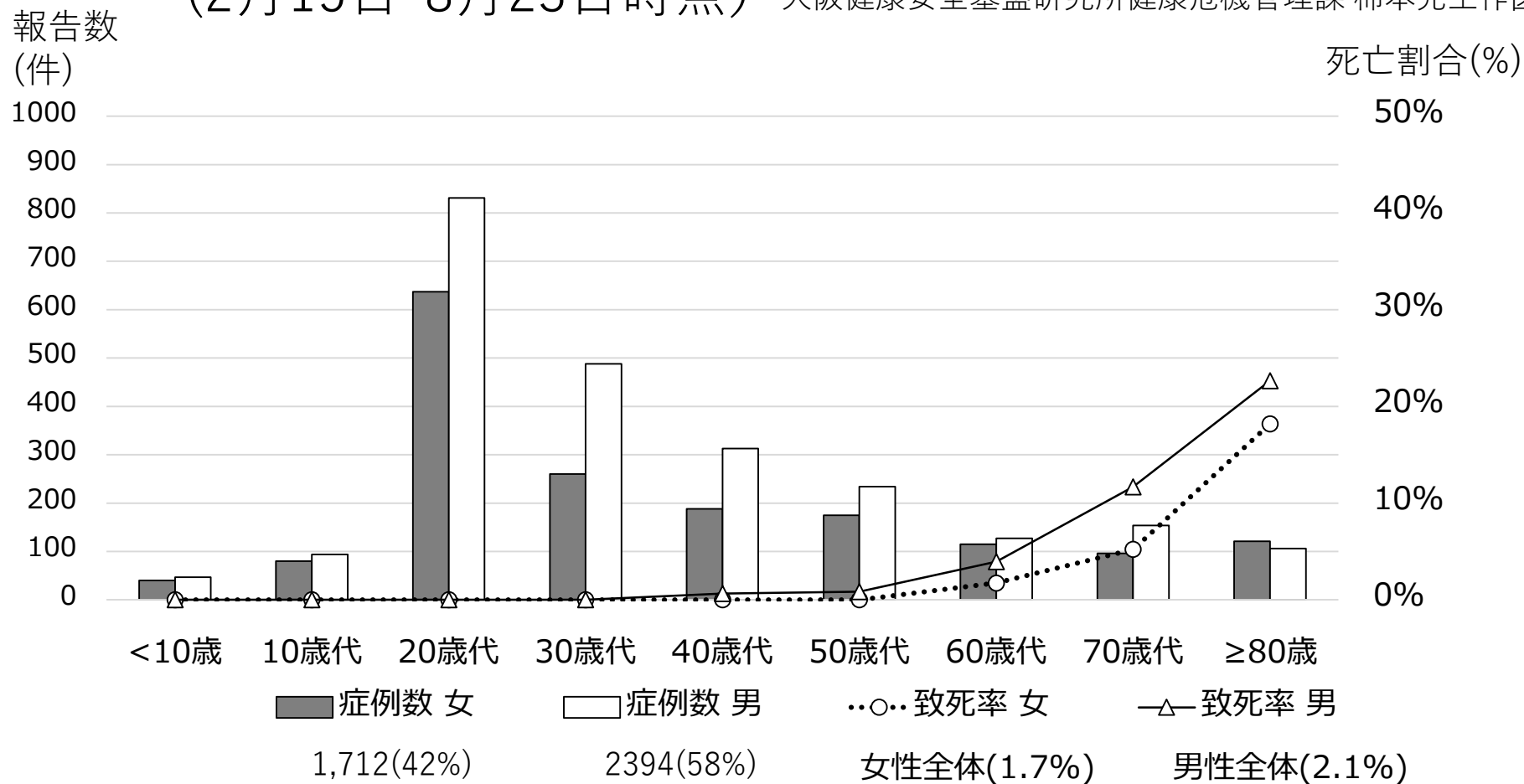
# 大阪市の週毎の検査陽性率の推移 (n=37,505) (陰性確認を除く)



- 7/27に検査数が大幅増加後、陽性率は14%前後で推移
- 直近では減少傾向あり、10.9%

# 大阪市在住症例の年齢階級別性別報告数(n=4,106) (2月15日-8月23日時点)

大阪健康安全基盤研究所健康危機管理課 柿本先生作図



- 20代の症例が全体の36%を占め、男性が女性に比してやや多い
- 10歳未満の小児の割合は2.1%と低い
- 死亡割合は60歳代以降で増加

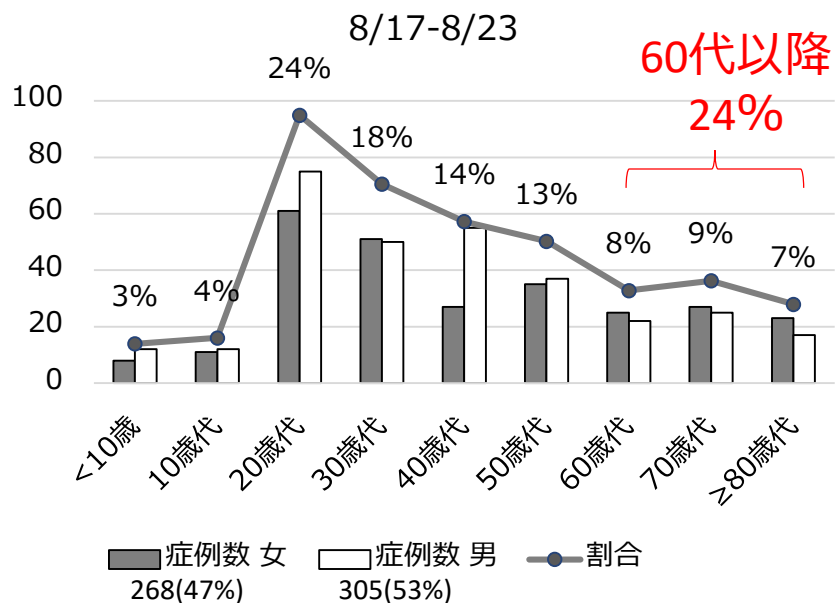
# 大阪市在住症例の年齢階級別性別報告数 推移

大阪健康安全基盤研究所健康危機管理課 柿本先生作図

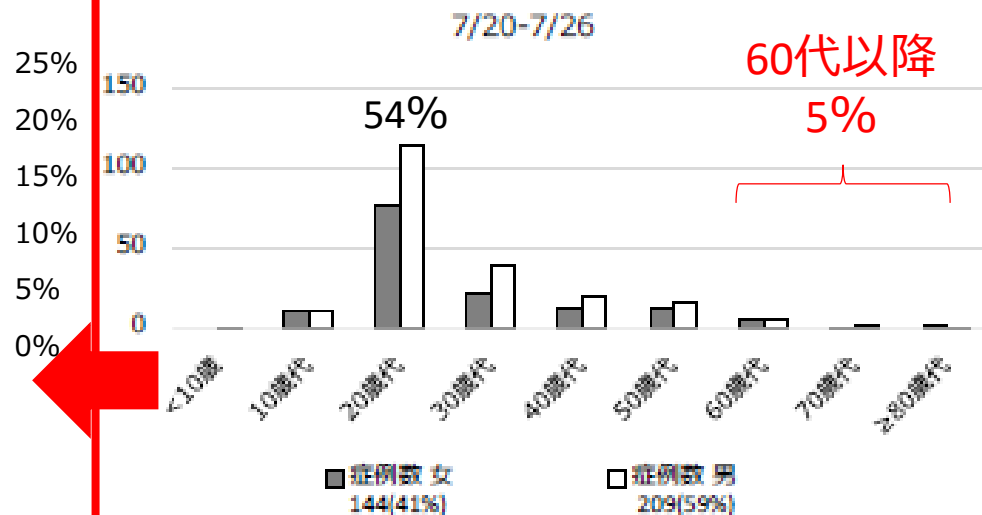
8/17-8/23(左)

7/20-7/26(右)

大阪市在住症例の年齢階級別性別報告数(n=573)



大阪市在住症例の年齢階級別性別報告数(n=353)



- 7/20-7/26(右) に比較し、8/17-8/23(左)の直近週では、20歳代の報告割合が減少(54%→24%)
- 一方で、60代以降の報告割合が増加 (5%→24%)

# 新型コロナウイルス感染症対策 現在までを振り返って 1

- 世界的な新興感染症パンデミック対応を経験している
- サーベイランスは発生当初、疑似症サーベイランスの枠組みで始まり、指定感染症に指定された後も届出要件の縛り等により、行政検査適応の判断に苦慮していた
- 臨床症状や感染様式等の新たな知見が蓄積される中で、行政の体制整備を日々行うとともに、医療機関と連携し、疫学情報と臨床情報を合わせて感染者の早期発見、感染拡大防止に努めた



# 新型コロナウイルス感染症対策 現在までを振り返って 2

- 5月18日、保健所に新型コロナウイルス感染症対策グループを編成し、通常感染症対策業務の再開および第二波に向けて大幅に組織体制を強化した
- 患者数増加に伴い保健所業務は膨大となり、患者情報の集約・解析といった全体像把握が困難な状況であり、国のクラスター対策班や大安研危機管理課の支援も得ながら対応している
- 第二波でも、医療機関・介護福祉施設でのクラスターが増加している
- 死亡割合の高くなる60歳以上、基礎疾患のある方々への感染伝播の防止、クラスターの早期発見が重要であり、今後も関係各所と連携して取り組んでいく必要がある